



朝一小だより

活気があふれ、心が潤い、一人一人がより良く生きる学校

Tel048-461-0052 <http://www.asakadailshou.city-asaka.ed.jp/>

学校教育目標

- ・考える子
- ・やさしい子
- ・たくましい子



朝霞市立朝霞第一小学校

令和6年7月1日

児童数 587名



夢とは、目標とは

校長 金子 二郎

先日、関東でも例年より2週間以上遅く梅雨入りしたと見られるとの報道がありました。心なしか体育館前の紫陽花も昨年よりも控えめに咲いています。その一方で梅雨末期を迎えたかのような大雨となったり、逆に晴れて気温が高い日には真夏を先取りしたような日差しとなったり、災害や熱中症への備えについても気を抜くことができません。保護者や地域の皆様におかれましてはどうかお過ごしでしょうか。



さて、先日、児童が将来の夢を文章にしたものを目にする機会がありました。クラスや学年を問わず、サッカーや野球の選手、パティシエやユーチューバーを挙げる児童がいます。加えて感心させられるのが、夢の実現のために「毎日素振りをする」「お母さんが食事を準備するのを手伝う」と言った、具体的な内容にも触れられていることです。以前にも脳科学者である西野剛さんのお話をもとに夢を考えることについて触れましたが、私自身もお昼休みに校庭にいる時、「校長先生の夢は何ですか」と男の子に尋ねられました。言葉に窮し「ん～、生きることかな」と答えたら、間髪を置かず「じゃ、頑張って長生きしてください」と励まされました。大人として上手い答えを思いつかなかっただけに怪訝な顔をされるかと思っていたところ、笑顔の応援に本当に元気になりました。

東京大学講師の船津昌平さんは近著「Z世代化する社会 お客様になっていく若者たち」の中で、1990年代後半から2010年生まれで10代から20代前半でいわゆる「デジタルネイティブ」でもある大学生や社会人について、「リスク回避志向」「自分は他では通用しないのではないか」という不安に苛まれている「目立つのは嫌だけど平均よりちょっと上



にはいたい」「成果ではなく費用対効果(いわゆるコスパ、タイパ)を重視する」といった傾向を指摘しています。「他の人はどうかな」と気を配りながら、自分の夢を声高に語ることがはばかれる時代なのかもしれません。ところで、大谷翔平選手が世界トップレベルで活躍し、まさに立志伝中の人として賞賛を集めています。毎日のように届けられる報道にワクワクしエネルギーをもらっています。大谷選手については高校時代に作った目標達成シート(マンダラチャート)も有名ですが、もちろん彼に憧れた全員がシートさえあれば同様に活躍できる訳ではありません。当たり前ですが、夢を諦めた人はもちろん、工程表通りに自分を高めることができなかった人が敗者ではありません。大切なのは自分の将来について様々な思いを寄せることであり、方向転換をした人が出会った本、他者からの何気ない指摘から、それまではわからなかった「自分らしさ」に気付き、新たな目標をもつようになるのは、むしろ多数なのではないかと思えます。梅雨空を覆う厚い雲の上で出番を待つ力強い夏の太陽は、何度でも私たちを照らしてくれます。



最初から多くのことを成し遂げようとして極端な努力をすると、たちまちのうちに全てを放棄することになる。(C.チャップリン)